

信夫澄子 しんぶ 歌人。大正五年五月五日東京生れ（一九三一）。日本女子大學生。外交史家信夫清（三郎）の妻。昭和二十四年日本共産黨入黨。新日本文學會幹事。

著書、詩集『平和のうたごえ』（合著・平和のうたごえ編集委員會議、昭和二十六年九月五日ハト書房）、『生活のこぼれ歌いみる戦後十年の女』（山田あき共著、昭和二十年六月二十日朝日新聞社）『朝日文化手帖』（『歌いみる日本の労働者』（渡辺順三共著、昭和二十一年六月二十日新評論社）、西田タツ著『道はくこー自殺した乙女の日記』（編、昭和二十二年十月二十五日光社）、『人生の道標』若く友への手紙』（合著・『人生手帖』編集部編、昭和二十四年二月十日文理書院）等。